

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292300049		
法人名	(株)快明堂		
事業所名	グループホーム快明堂		
所在地	静岡県富士市中央町1-10-12		
自己評価作成日	平成26年6月6日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

リハビリができるグループホーム

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	okensaku.jp/22/index.php?acti=okouhyou_pref_search_list_list
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、富士市の中央商店街の近くにあり、近隣にはお祭り、催事がふんだんにあるという繁華街です。そして事業所では、いつも笑い声やにぎやかな会話が飛び交っています。事業所は、グループホーム、デイサービス、居宅介護支援の部門があります。前身が整形外科病院であり、今でも機能訓練を介護支援に取り入れる特色を出しています。グループホームの理念は、職員全員でつくっており、入所者を「快に導く援助」「安心・安全・穏やかに心をはげめる」。など笑顔と安心を届けるよう介護支援を実践しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人しずおか創造ネット		
所在地	静岡市葵区千代田3丁目11番43-6号		
訪問調査日	平成26年6月16日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員1人1人が理念を考え朝の送り時に読むようにしている。	事業所では、企業理念の他「私たちの理念」として職員各人が、一つの理念・行動指針を考えてつくり、その理念を実践するよう日々の介護に当たっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	○地域の公園で地元の方々と交流を実施 ○地域のお店や公共機関を利用し顔馴染になっている。○運営推進会議に参加して頂く。○防災訓練に参加して頂く等。	事業所は繁華街の中にあり、利用者さんは様々な祭り、催事に参加し交流を深めています。また隣の授産所の福祉まつりにも参加したり選挙の投票にも参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	○中学生の福祉体験で認知症サポーター養成講座を開き認知症への理解を深めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の意見を職員がみる機会がない為議事録を皆で閲覧し共有できたらと思う	運営推進会議には、地域包括、地域の方、ご家族を含め多彩な出席者です。100才の誕生会、中学生の研修参加など盛り沢山の報告です。、会議の議事録は、行政に提出し所内にも、回覧・掲示し活用しましょう。	運営推進会議の開催は、法律で定められており、その議事録は重要です。見やすい書式、日付などの記述に一層の工夫をする事と職員の更なる出席に期待したいものです。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	○運営推進会議に市の介護保険課担当者や地域包括支援センターの方が必ず参加して下さいます。	地域の独居老人の情報を地域支援センターに伝えています。市からは認知症サポーター養成講座開催の要請があり近く開催の予定です。全市では連絡協議会と研修会の交流があります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介指定基準は正しく理解は出来てないと思うが、今現在は身体拘束をおこなっている方はいません。夜間に関しては玄関は施錠させて頂いています。	身体拘束については、職員の勉強会で、更なる理解を強めるよう、また、スピーチロックの理解を含め、研修することになっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特に虐待に対して学ぶ機会を作っていない為、今後できたらと思う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を設けていない為、今後やっていきたいと思えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	○お一人おひとりの御家族様へ説明を行い常に話しやすい環境を提供している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○意見要望箱を設置し、要望などがあった場合は経過結果を表示し御家族様等へ伝えている。	職員の赤ちゃん言葉の使用について、ご家族よりの訴えがあり改善させました。ベットの間の隙間の問題ではカバーを付けるなど、迅速な対応と結果報告をしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見は毎月のカンファレンスにて全員周知の上で反映させている。	食膳運搬ワゴンに衛生面からカバーの設置、トイレに汚物洗い槽の新設、備品棚の増設など、会議以外でも日常的に要望が出され反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	○各人に対して各雇用契約の際、意見交換を行い両者同意のうえで署名捺印をもらい、仕事への評価を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○職場内外の研修への参加を積極的に促し、質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○グループホーム交換研修への積極的参加や認知症型施設との交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを利用する段階で十分に聞き、安心して入居できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方も同様に十分に聞き、いい関係が築いていけるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、現在他のサービスも使っている利用者の方もいらっしゃる為、出来ていると思われる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に利用者の意見を第一に考え、利用者の想いに寄りそうようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	○施設サービス計画書を確認して頂き御家族様からの協力を依頼し職員と共に利用者の方を快へ導いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	○御本人の生活歴からの要望や意向を取り入れて馴染みの環境を継続している。	事業所では、入所者ごとに担当職員制を敷いており、生活歴の把握に努めています。美容院は、昔馴染みだと落ち着く、亡夫の命日は自宅で回向するなどの支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	○共同生活の中で利用者の方々の人間関係を把握し、一人一人が役割をもって支え合い助け合い、感謝し合える関係を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	○サービスが終了してもボランティアとして施設へ貢献して頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ本人の意向に添えるよう心掛けている	事業所では、センター方式の記録から情報を得て想いの意向を「はあく」しています。ターミナル症状の方でも、何気ない会話から、話が弾み昔の縁の情報がよみがえり支援に結びつくこともあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○利用の際アセスメントを行い御家族様や関係者の方から生活歴などのお話をじっくり伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者1人1人に職員が担当しており現状把握できていると思う。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に最低1回、職員全員でカンファレンスを行い、より良い暮らしに向けて話し合いをしている。更に必要な場合は適時、行う。	事業所では経過をモニタリングしながら毎月1回評価しています。そして現状に即した介護計画に見直し、毎月訪れるご家族の了承を貰っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録からカンファレンスを行い、その人にとってより良い暮らしを目指しています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	○安心安全を第一に考えて御本人や御家族の意向に沿った協力出来る限りのサービスを実施することを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	○地域で取り組んでいる古紙回収に協力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人様の訴えがある場合は受診できるよう支援しています	入所者は、ほとんどの方が終末期の支援の関連から事業所の協力医に変更されています。往診は月1回で、受診の通院介助は職員がしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じ職場内に看護師がいる為、何かあったら直ぐ報告するようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者が出た際は面会に出来るだけ行き、情報収集に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	何か変化があったら常に家族に連絡しドクターとも連携がとれている	事業所では、入所時や終末期に詳細な確認書を取り交わしています。25年度には看取りの方が、多くありましたが看護師を中心に「生と死の心構え」を学習し実践し、医師の努力もあって、安らかな看取りの支援が出来たということです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが全ての職員が把握できているかは不明である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は行ってはいるが地域を含めては行ってない為、今後地域を含めて、常に行きたらと思う	防災訓練は年2回、デイサービスと隣の障がい者授産所と合同で消火器の使い方などを実施しています。独自の夜間訓練では避難訓練をしています。今後は、地元町内会の訓練に参加する予定です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者、個々に合った声掛け、対応をしています	声かけでは、利用者の訴えを個々の場合をとらえ判断し、的確に対応するよう指導しています。そしてトイレ誘導等では、小声で対応し必ずドアを閉めようと指導しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の想いを1番に考え支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて日常を送っています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で着替えできる方は好きな服を着ている。他の方は職員がお手伝いします。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	片づけをできる方はやって頂いている。食事を楽しむ工夫は必要と考える	昼の食事は専任の栄養士、調理師が用意し朝、夕は職員が担当しています。気配りは、メニューの工夫や食材により器の彩りを変化させるなどで、食事を楽しむよう心掛けています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量が一目でわかるよう一覧表を設け、水分が足りないようなら補うようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをおこなっています。出来ない方は介助にておこなっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は利用者全員、トイレでの排泄を行っている。夜間は紙オムムで対応する方もいる。	全員紙パンツ、紙オムムをしています、中には3人ほど自立している方も、おられます。記録は、センター方式のチェック表を使っています。そして失禁時は、さりげない誘導で対処するよう指導しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日1回ヨーグルトを提供し便秘予防に取り組んでいる。身体もなるべく動かして頂くよう心掛けている。便秘気味の利用者の方には下剤が処方されている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の意見に寄り添いながらできるだけ希望が叶えられるようにしている。入浴剤なども使い、匂いでも楽しんでもらうようにしている。	入浴は、週2～3回を目途にしています。入浴嫌いの方もおられますが無理強いせず、翌日に回すなど入浴を楽しむよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも休みたい希望があれば休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法・用量はわかっているが副作用までは理解していないと思われる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人ケアはなかなか出来ていないのが現状です		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なかなか外出できていないのが現状である。近くに公園があるので、そこは良く利用している。	近くの緑濃い公園で散歩を楽しんだり、事業所周りの広い歩道を散策しています。遠出は、車を利用します。時には、市の施設ロゼシアターに数人で行きコーラス公演を楽しむそうです。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お買い物などでかけられるような利用者の方はご自分の財布をもって出かけたり使えたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話をかけたい場合はまず職員が電話をかけ代わってもらうようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度室温などに気を遣い、利用者の方が過ごしやすい場所の提供をしていると思う	利用者の皆さんは、日中ホールに集います。壁には6月の象徴アジサイの絵やサッカーの写真が飾られています。2階には、機能訓練の器具があり、リハビリやトレーニングを楽しむこともできます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	今現在、工夫にかけているように思う。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れている物などは持ってきてもらい、過ごしやすい部屋の提供を行っている。	居室、廊下は木張りで「昭和の雰囲気」のレトロ調です。廊下の壁の所々に座れるスペースが設けられており、ここは落ち着いたお休み所のような感じです。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今現在、工夫にかけているように思われる		